したがって、入浴日はできるだけ欠かさないようにすることが必要であると思われる。

〔結　　び〕

ＰＭＤ患者におよぼす入浴の心理的影響を、「快」、「不快」にもとずいた調査票を作成し、アンケート法により検討した。

ＰＭＤ患者はおおむね入浴が好きであり、入浴方法としては、現在、各施設で行なわれている方法で、さしあたり特に大きな問題はないという結果であった。ただ、不快の項目の結果は、介助者の細かい心遣いにより改善される点がまだ残されていることを示している。

なお、障害度および年令による群間比較を行なったが、特別な差は認められなかった。

50 〃入浴に関する看護〃設備について

国立療養所西多賀病院
佐　藤　枝美子　　三　井　和　子
菅　原　八代重　　小　山　勝　次

〔はじめに〕

昭和50年度から共同研究、入浴に関する看護の一端として、各施設にアンケートを依頼、調査の結果、患者の障害度に合った入浴設備、介助者が能率的に腰部に負担なく入浴の援助ができる設備、患者、介助者が危険なく安心して入浴できる設備の３つの課題を見出し、各施設の設備の利点欠点を踏まえ検討してきたので報告する。

〔設備の検討〕

1. 浴室

１）位置、患者移動の面から病棟の中央付近に設ける。

２）広さ、移動に必要な労力を最低限にする為、車椅子やストレッチャーが浴槽や洗い台まで移動できる広さ。

３）湿度、温度

(1) 室内と室外の温度差を少なくする。（特に冬季の暖房に留意）

(2) 浴室の広さに応じた換気扇を設ける。

４）出入口

(1) 出入をスムーズにする為、別々の場所に２ケ所設ける。

(2) 廊下と浴室との床の段差をなくす。

(3) 車椅子、ベッド等が出入するのに充分な幅をとる。（180㎝～200㎝が適当）

(4) 「入浴中」と誰れにでも判るように表示する。

5）その他

(1) 床は滑りにくく、排水のよい掃除しやすい材質とする。

(2) シャワーは患者、介助者が使用しやすい位置で前後左右移動可能なものとする。

(3) 壁の配色を考慮する。

1. 浴槽

各施設（672名）での患者の入浴状況

1）坐位保持可能患者　59%

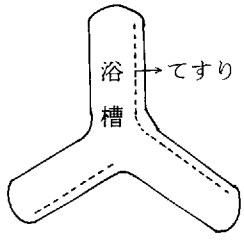
2）ささえの介助が必要な患者　19%

3）歩行、いざり可能な患者　13%

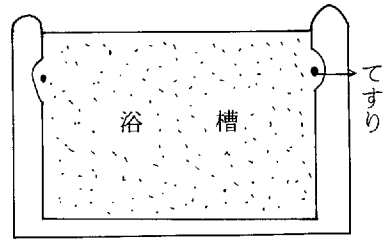
4）変形の為水位が問題な患者　9%

以上のことから各々の障害度に合った浴槽又は装置が必要である。

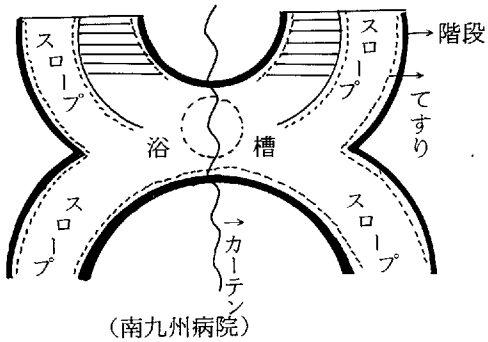
例図1



例図2

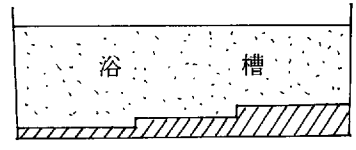


例図3

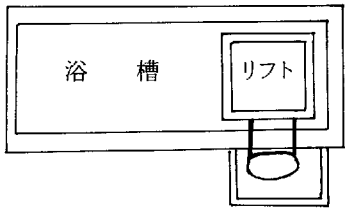


（南九州病院）

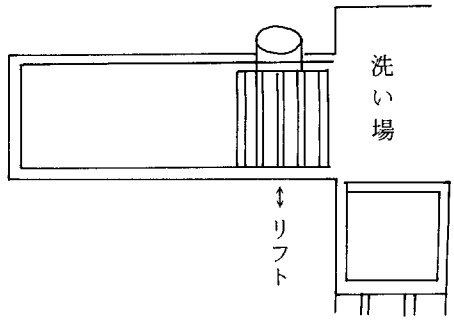
例図4



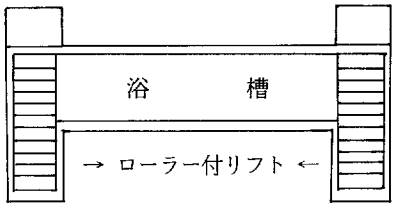
例図５　（刀根山病院使用）



例図６　（宇多野病院使用）



例図７　（西多賀病院使用）



１）坐位保持可能者の浴槽（例図１）

(1) 浴槽内での転倒防止の為、介助者の手が容易に患者に届く形態とする。

(2) 姿勢安定の為、手すりをとりつける。

(3) 手すりは浴槽の内側に取付けると介助時の危険もすくなく、又体重の重い患者の介助が容易である。（例図２）

２）ささえの介助が必要な患者の浴槽

(1) 介助者のささえなしで臥位の状態で入浴できるエレベートバスを用いると安全でよい。

３）歩行、いざり可能な患者の浴槽（例図３）

(1) スロープ、階段を用い自力移動ができ、浮力を利用して動きまわれる浴槽。

(2) 浴槽の高さはいざり可能者が自力移動できるよう床面と同じにする。

４）変形の為、水位が問題の患者の浴槽

(1) 階段式（例図４）あるいは自由に水位調節ができるエレベートバス、リフト式（例図５６、７）が望ましい。

3. 着脱室

(1) 車椅子より自力で乗降可能な高さとする（40㎝～45㎝が適当）

(2) 起立可能患者の場合、起立しやすいよう囲りに手すりを取付ける。

(3) コンセットの位置を考慮する。

(4) 暖房、換気扇の設備を設ける

(5) 衣類棚は、介助者、患者が取り出しやすい位置に設ける。

〔おわりに〕

その施設の対象者、システム、介助者数によって、浴室、浴槽の広さ、型等が異ってくる。又病気の進行を考えると一つの浴槽だけを使用していると種々の問題がでてくるので、できれば2ケの浴槽を中心に、洗い台、着脱室等を考慮した設備が能率的で患者も安楽な入浴ができると思われる。又、今後の課題とし、配置や動線を考慮した入浴設備を研究していきたいと思う。

51 入浴時の着脱介助と着脱室の改善

国立療養所医王病院
中　山　　緑

〔はじめに〕

当施設でも筋ジス共同研究「入浴に関する看護」と云う課題をもとに、入浴後に及ぼす影響を調査した結果、全般的に機能が向上し入浴は患児にとり気分も爽快であるという事がわかった。今後介助者の負担も軽減した上で入浴回数を増やし、快適な生活が送れる様にと、介助者の理想的人員や設備、機械の導入などについて検討してみた。簡単に解決される問題ではないので、とりあえず入浴時の着脱介助及着脱室の改善を行って見たので報告する。

〔改善内容〕

1. 入浴介助では、男子職員が抱きかかえに重点をおき、女子職員は清拭、洗髪に重点をおく様に心掛けた。
2. 着脱方法も、車椅子、電動車のまま浴槽近くまでいき、浴室内で脱衣を行い抱きかかえの移動距離を短縮した。
3. 2台の着脱台にキャスターを取り付けて着脱室と浴室間を移動させ、衣服の着脱を行う様改善した。したがって2台を交互に使用するため能率的であり、又着脱台が広く安定性もあるので、子供達も滑り落ちる不安もなく、介助者の負担も大巾に軽減された。写真1参照。
4 着脱室の床面は、すべり止め用のゴムカーペットを一面に敷きつめたところ、見た目にも清潔であり車椅子の操作もスムーズに行える様になり、介助者も足を取られ転倒の危険もなくなった。写真2参照

検索用テキスト　OCR（光学的文字認識）ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

〔はじめに〕

昭和 50 年度から共同研究、入浴に関する看護の一端として、各施設にアンケートを依頼、調査の結果、患者の障害度に合った入浴設備、介助者が能率的に腰部に負担なく入浴の援助ができる設備、患者、介助者が危険なく安心して入浴できる設備の 3 つの課題を見出し、各施設の設備の利点欠点を踏まえ検討してきたので報告する。